



臨書新從
日記
卷

775
211



曾
773
211

羣書類從卷第三百六二

檢校保己一集



日記部三

贊波典侍日記上

嘉養二

六月乃共えくろくく〜田子れそすきほ
りふらむ〜むらもろく〜ぬあ小物じつ〜
ふふ海〜も心長深をふ里席〜きよあさしじ
その事おもひぼ〜も〜も物あももなまは
〜と見えか〜してみま〜おれあ〜すたひあ〜の
〜さあひあ〜る〜海小村あ〜りな〜ん〜あ
あ井のあ〜い〜ひ〜ん〜む〜もあ〜り〜い〜ん〜あ

かきく〜ら〜地ととぬの〜れあやめりふ下よ
あ〜あ〜す山や〜きんも緒〜の香とららか
た〜い〜れ〜ぬふ友りあが〜き記をもて
いせの〜ぬ〜ら〜じ〜の事とさひ〜ら
ま〜潤〜ま〜ひ〜い〜おまは秋あ〜は〜海
つら事春り花秋のぬ糸と目〜く〜月〜書
ぬ糸とさ〜めおまは〜い〜は〜と〜海〜ひ〜て〜也
海〜のふ〜年の〜ら〜秋〜つ〜海〜つ〜〜〜常ハ
貝もあ〜は〜事〜ぬ〜あ〜は〜ら〜は〜は〜あ〜ら〜ぬ
流笛の音と〜さ〜あ〜い〜ふ〜あ〜く〜い〜お〜〜〜り〜ら
事〜も〜ら〜は〜〜の〜第〜の〜あ〜り〜〜〜な〜ら〜ら

あ〜ら〜り〜て〜魂の水〜液流とひ〜あ〜く〜の〜路も
あ〜ま〜あ〜ふ〜ら〜ら〜〜〜〜〜〜〜海〜ら〜ぬ〜
か〜い〜お〜きんよ海とれあ〜く〜や〜す〜〜〜書〜事
あ〜ま〜ハ〜姨とあ〜ふ〜あ〜く〜さ〜あ〜ら〜痛〜く〜ま〜て〜あ〜あ〜い
く〜そ〜六月廿日〜事〜ら〜〜^{堀河}内を倒るぬ〜も〜あ
あ〜〜あ〜た〜ら〜ら〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜ら〜ら〜も〜
からにあ〜も〜と〜人〜の〜あ〜や〜じ〜〜〜〜〜〜人〜の〜死
と〜み〜〜ぬ〜〜印〜ら〜ま〜て〜書〜と〜〜〜〜〜あ〜書〜
〜ら〜ら〜〜〜ら〜と〜あ〜〜あ〜〜〜〜〜〜〜〜〜
〜ら〜と〜〜一〜流〜井〜に〜も〜る〜四〜事〜と〜な〜り〜あ〜ら〜ら〜
〜ら〜ら〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

をきりいひおぼしきなりともいふ事ありし
大敵のこゝろをいへせむとてしむるは去年
の四年の事にはもたれしに物もいへ
鳥羽の四年の事にはもたれしに物もいへ
ま事ゆりふふいせしに物もいへ
を何変もいへしに物もいへ
と仰しに物もいへしに物もいへ
今世にふ難もいへしに物もいへ
れしに物もいへしに物もいへ
りして物もいへしに物もいへ
おしに物もいへしに物もいへ

いふ事ありしに物もいへしに物もいへ
ていへしに物もいへしに物もいへ
けしに物もいへしに物もいへ
か^{長押}しに物もいへしに物もいへ
との事いへしに物もいへしに物もいへ
あしに物もいへしに物もいへしに物もいへ
いへしに物もいへしに物もいへしに物もいへ
りしに物もいへしに物もいへしに物もいへ
さしに物もいへしに物もいへしに物もいへ
せしに物もいへしに物もいへしに物もいへ
くかす時いへしに物もいへしに物もいへ

ありぬおのい殿の二位もなほ由りてあり
らじ儀もせ給へしおまの御事待候もて秋も
はくしては給ありしうらづら給候もて
中へかへりしうらづら給候もて
ゆふもたはしよりおまの御事待候もて
きかめりて見ゆしうらづら給候もて
給へし
長治二
のほを給へしうらづら給候もて
皆心もんとて成りし大氣之位もあらふ
えあはれしうらづら給候もて

もんにききし給へしうらづら給候もて
戸いしすまの今日もては給へしうらづら
よふもて給候もては給候もては給候もて
たはしよもては給候もては給候もて
してあはれしうらづら給候もては給候もて
ありしうらづら給候もては給候もて
よせしうらづら給候もては給候もて
くらもては給候もては給候もて
心もては給候もては給候もて
かくもては給候もては給候もて
を給候もては給候もては給候もて

あや... 江崎... 又... 十九日... 佛

江崎... 又... 十九日... 佛

りふふゆ〜せゆひて見せさるるにやふなりくし

雅俊 右衛門督深中納国信 大后殿の権中納言宰相頼道 中將雅俊

尤大御所重資 入り入て大后殿ひつらく各に多ふ

我もせん〜是〜きふとそやせん〜あめると

みゑてむら門さゆひぬみららやうれうりな

ふ人うやうは〜一とせのやうに在るせゆへう

ゆらりゆ〜めん〜ふらとそをぬき八人

おふ〜あ〜さ〜あ〜さ〜ゆ〜い〜う〜う〜

あ〜〜是〜〜め〜〜あ〜〜後きうりいつ〜新〜せ

ゆ〜あ〜さ〜う〜よ〜ゆ〜あ〜〜り〜〜あ〜ゆ〜まは

西几帳〜と〜ゆ〜〜は〜〜この〜と〜〜け〜ハ加ゆ

系りゆ〜経〜ふ〜す〜ゆ〜ふ〜や〜ゆ〜ま〜せゆひ

多ゆゆ〜のあ〜ら〜せゆゆ〜〜あり〜ゆ〜ふ〜

十六日の事〜は〜あ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

あもぬき〜〜あ〜と〜あ〜に〜え〜さ〜せ〜ふ〜ふ〜

らとぬ十七日の晴日大式〜任〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

て〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

んあま〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

あ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

あり〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

にたりあふて致す物もあやしく申す事にして今に年も
とありて一に御事候へ御事候へ一と云ふ事あり
見し事候へ御事候へ一と云ふ事あり一と云ふ事あり
多しと云ふ事あり一と云ふ事あり一と云ふ事あり
御事候へ御事候へ一と云ふ事あり一と云ふ事あり
かへらあふて致す物もあやしく申す事にして今に年も
あはれと云ふ事あり一と云ふ事あり一と云ふ事あり
御事候へ御事候へ一と云ふ事あり一と云ふ事あり
いとあふて致す物もあやしく申す事にして今に年も
けあれと云ふ事あり一と云ふ事あり一と云ふ事あり
御事候へ御事候へ一と云ふ事あり一と云ふ事あり

おほくの事候へ御事候へ一と云ふ事あり一と云ふ事あり
祈り候へ御事候へ一と云ふ事あり一と云ふ事あり
かけあふて致す物もあやしく申す事にして今に年も
おほくの事候へ御事候へ一と云ふ事あり一と云ふ事あり
あはれと云ふ事あり一と云ふ事あり一と云ふ事あり
かへらあふて致す物もあやしく申す事にして今に年も
あはれと云ふ事あり一と云ふ事あり一と云ふ事あり
御事候へ御事候へ一と云ふ事あり一と云ふ事あり
いとあふて致す物もあやしく申す事にして今に年も
けあれと云ふ事あり一と云ふ事あり一と云ふ事あり
御事候へ御事候へ一と云ふ事あり一と云ふ事あり

しよ中ねふす補せうのこころをよめりて
そふかやうにいひて人ありあはれ物に
秋もなほししうつとありてさうなや
物の中ありてさう僧頼蒙ふらういふおと
りてねし人ありてれさふてしよせ乃
約章の後又見まふてせやれしありひ
系すすねふそのとくかききはわありあり
らそふそしりふとまうけふひありひふ
年例さふふさゆふ車ありてさう約章と
ありてありてありてありてありてあり
しよ八年のゆめありてありてありてあり

くろしもろしなせねふあり例のほわ
人けりしうさふ心おしなふ人しよせ
あふひやり方のおもきはりふありあり
今乃ちりしういふおんやそありてあり
かゝりしういふありてありてありてあり
いそわしありてありてありてありてあり
さう今乃ちねふし作しきあるありてあり
外道に道者をとありてありてありてあり
さうしよせふふ文まのしよふありてあり
ありてありてありてありてありてあり
事ありてありてありてありてありてあり

にもまゝいへさうせ給ふぬみふむらせ目とらまて
ちりくちりく名く娘く孫打のうらして華のお
りじこ中あさうり給ふ十戒と先のをたう字
うせ給ひて居あつて皆給ふらうれきあを世
うして十善の位あつてもあつち佛法をあらめ
一切衆生をあわれまきせ給ふ心ゆきしじうあ
今にまほまてかまらうこの帝まありう
うらまひの十戒のちりうにまあふふ湯垢澄
除せうきんして百子の湯命あつてもあつち
あつちうらうらうらうらう今やうあつちあ
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
ちたまのうらうらうらうらうらうらうらうらう
うせ給ふらうらうらうらうらうらうらうらうらう
あつちハ故有^{願房}たはら子に^{定海}あつちあつち
いふ人のうらうらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
かいつたうらうらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
湯垢もえぬとらうらうらうらうらうらうらうらう
あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

だめしむるいふありと軍由ありしころありて
まことしむるもさるにさしけの方便品の法具
小の系はしりの長引とせとゆりしにありし
さうけりてな中し之糟糠佛威徳故に
いふ不ありしとせらりしはありてなまてありし
らりしはしむるも所ありてゆふしとありし
多しとせりしとせらりしとせらりしとせらりし
和らりしとせりしとせらりしとせらりしとせらりし
をふとせりしとせらりしとせらりしとせらりし
ありしとせりしとせらりしとせらりしとせらりし

由せりしとせらりしとせらりしとせらりし
威にありしとせらりしとせらりしとせらりし
らりしとせりしとせらりしとせらりしとせらりし
ありしとせりしとせらりしとせらりしとせらりし
まことしむるもさるにさしけの方便品の法具
小の系はしりの長引とせとゆりしにありし
さうけりてな中し之糟糠佛威徳故に
いふ不ありしとせらりしはありてなまてありし
らりしはしむるも所ありてゆふしとありし
多しとせりしとせらりしとせらりしとせらりし
和らりしとせりしとせらりしとせらりしとせらりし
をふとせりしとせらりしとせらりしとせらりし
ありしとせりしとせらりしとせらりしとせらりし

いんままのせうへんをいふまゝに
うせぬまゝにうせぬまゝに
御几帳のまゝに御几帳のまゝに
よき作りのまゝに御几帳のまゝに
まゝに御几帳のまゝに御几帳のまゝに
やうあつたまゝに御几帳のまゝに
あゝまゝに御几帳のまゝに御几帳のまゝに
おかまゝに御几帳のまゝに御几帳のまゝに
わゝまゝに御几帳のまゝに御几帳のまゝに
まゝに御几帳のまゝに御几帳のまゝに
枕かゝるまゝに御几帳のまゝに御几帳のまゝに

おまゝに御几帳のまゝに御几帳のまゝに
わゝまゝに御几帳のまゝに御几帳のまゝに
まゝに御几帳のまゝに御几帳のまゝに
枕かゝるまゝに御几帳のまゝに御几帳のまゝに
おまゝに御几帳のまゝに御几帳のまゝに
わゝまゝに御几帳のまゝに御几帳のまゝに
まゝに御几帳のまゝに御几帳のまゝに
枕かゝるまゝに御几帳のまゝに御几帳のまゝに
おまゝに御几帳のまゝに御几帳のまゝに
わゝまゝに御几帳のまゝに御几帳のまゝに
まゝに御几帳のまゝに御几帳のまゝに
枕かゝるまゝに御几帳のまゝに御几帳のまゝに

皆珍しく一日入りぬきつても何の物か知れんか
と物なり何なりとも見えしきく心も何れも
らまも僧正之位後二人の宗我乃六人の心く
いし門よまもくもあひさう夢をわしませ
わらうらと滅くろもあつとまもりめも思あ
者寸重し入て佛をうくくくくくくくくく
さるもものも例をぬあつとあやの
僧多あも物いあふいまれくくくくくくく
りすもくくくくく人の心く入多年あり
仏はくくくくく六十餘年ありぬか
まもくくくくく佛法つくすもくくくくく

まもくくくくく人かくくくくくくくくく
あまくくくくくくくくくくくくくくく
ま佛くくくくくくくくくくくくくく
けひぬぬぬぬぬくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく
今何れかひれくくくくくくくくく
まもくくくくくくくくくくくくくく
なみぬぬぬぬぬくくくくくくくく
まあひやう小法ありくくくくくくく

病の心ありぬきやわす十日くらりす状も癒し
床しつゝおひつゞつてせはふりつゝつ見ゆ
ら傍ていそつゝもつゝもつゝつてわす
さし源今一度おつゝもつゝつてわす
流くあかもつゝやわすつゝつてわす
りんとあつゝつてわすつゝつてわす
さつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
あつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
ふの座今つゝつゝつゝつゝつゝ
ふりあつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
せんつゝつゝつゝつゝつゝつゝ

もつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
まもふ二つゝつゝつゝつゝつゝ
入事人のつゝつゝつゝつゝつゝ
てありつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
うら見あつゝつゝつゝつゝつゝ
成れふつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
んつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ

いそぎ事と黄くぬふあき物と行く心地そ
とれあくと多しとひてりふやうあふらり
うやあき今津金寶釵のりりる芳をふと
りりりり物とふそ日のしるれ物具のり
くるとい張のひりりりりりりりりりりり
い張のりりりりりりりりりりりりりりり
多くかるといふより其法内侍とやう多敷の
りりりりりりりりりりりりりりりりりり
てありりりりりりりりりりりりりりりり
おまのりりりりりりりりりりりりりりり
こくて何ありりりりりりりりりりりりり

右津借 仙洞御本使安中書恭廣端太神
景明奥書寫之興清用寺亜相具房卿一
校了落字魚魯等不可勝計重可加校
正者也

寛永十六稔念二

秘書郎

一々いふてはらふしむふもひきさるる成るるハ
 かくしりし一糸お月やも成ぬ十九日ハ例の
 糸くんとあふた寄よりあはもつて川もつてあら
 をくもつしとわいさひく程なくしりしとなく
 成るるまは八つとつ人ハ糸とじりにか一物も
 糸あぬまきくしとめまは成ハこの日なんわふ
 けしとつとあつしとびら口わいさふわいしを
 けしりうあつ人か一糸くつりしとわいさる
 糸あふてよか一糸くつりしとせはひあつん
 洗雅賢も大匠殿とよふいさくさとわいさ糸せは
 く寸と七わいさ糸もわいさくさくさくさくさ

かくす海めつて我は男あは車の中りかきはおも
 かり一浦さめは供の人さしとつとあつんはあつ
 けむあひさあつとあつと人きりになつと思れ
 じとて下つ事なつとあは河のめ世月あつと
 くとつとわいさくさくさくさくさくさくさ
 姉一とつとあつとあつとあつとあつとあつと
 事うハ我と寸とつと糸くつとあつとあつとあつと
 糸くつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 きはやいされわ人ともあつとあつとあつとあつと
 車ささくさあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 供の人ともあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あーらり物わらしまるり熟りよは少純ひをり
 さらりーらゆさうやーおるー色を清し帳の手
 ありきをりゆき川さうーの大麻ふもさー
 あり熟ありにまあさめやわさかくわうーと勢
 らかや物さくあーすさうけをへーてめす
 せ衣なるひは清きく忠實敏あー勢清ひて人々
 わなとらさくすまは物とらいつせあーてきん
 甲かよありーまーふさあさうあさーわらさ
 まー又柱かかーおさつあさあ清ひー
 是ららすさくたあさ記年やいささんさるこ
 ぶくさあとわらさあさくさあわらわらささ

幸と心ふゆをくさるーん年月といえ
 らひあさささーもあーあささうらさ川ふ
 あさわきまさいささーの弁にわさ人あり
 ーあまはさきまさるさあさ夢夢花あさ
 ーゆああめさささーの内にちやあさ川い
 わさ川あさまゆさあゆふて今よりハかよふ
 にはさあはさもむーのあひあささ清ひてあさ
 あさたにそのわら物諸さーてささあんか
 ああささあー我も人もあさーぬうあささ
 物せさああふあさはらあさささ陪膳んハ難
 ささささささささささささささささ

とてゆいありあはれきりといふ辰にみぢる二月
小なりもついでいふにほらふとらふあり
海にさしりしのをとあそびまはせし二月六
日^修志やうといふとく内にはゆひとむひ
よとせらむとあかきありあらさくあをよ我
とくしておとす海とあまあまけや内侍か
くしてかりありに此ゆへにせむおわふ
おとすひげきしてねしゆにたりかきま
くしてとくを内侍あひあせんゆ
うたきまきあといひああはれあといひ
あかきありあまきりあにけあけあけ
もえちうせそとあもつてわらぬあはくゆり
あにたおともかりつとあはくあはくあ
みまはさくああはくもえあはくあはくあ
うへえあもれとい月にさけあはくあはく
まんとくあはくあはくあはくあはくあ
こまひを佛のあはくあはくあはくあはく
あはくあはくあはくあはくあはくあはく
あはくあはくあはくあはくあはくあはく
二月に成ねまを例の月小あはくあはくあ
のあはくあはくあはくあはくあはくあはく

由つての事

後拾

いふに小冊も著しは後たり然る物に...
とよむらんけふとあやして花の海...
ちきさつおとびう... 清涼殿とハ...
沙ひあ七月とは宵曉の初特...
のくくくくまらた道り津々...
内裏に...あ... 所をさひ...
させはくくく... 院の中...
けふ... 清涼殿と

... 景のうへとむら...
... 宮の西方に十

海と... 法華經と目...
... 位...
... 今す...
... 見...
... 所と...
... 青...
... 昔...
... 例の事な

物して少くは秋の物もさへもふかき一ふかき
ふかき一ふかき一ふかき一ふかき一ふかき一ふかき
けしむをさるる山河をらにあまはたむらゝの氷をら
れつゝこもらいつゝはかひゆをらゝかみゝ左を
をらもをれをたひきり半山とてあふは
つゝにやゝあるとあふゝにやゝをらゝの
治るぬ物ゝのつゝひゝかゝあゝとて秋よの
うそみか人ゝよせゝぬきゝと我ハ物ゝのゝひ
けゝもゝもて目もあゝはれは乃名^對あゝいゝは
よのゝもるぬ物ゝのつゝはる中々をらゝの
あゝゝあゝゝあゝゝあゝゝあゝゝあゝゝあゝゝ

けゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
てゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
はゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
かゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
をみきゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
かゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

節句

せくきくせおして十傳日は威ぬつありあり
初ふ流るる油やう方とみやきは油ゆき
うせ流るるよみ一経とくちあふりくち
せんくゆれて山おらあひのけひとくにゆらるに
多らそあり一きして認めせあひあ高きあをそ
あふ山ゆらうこめあまてあうてわくまをんを
あゆ一りしてあまのあゆか一川かせ流る
山津いよひあひるに山まへぬけり一きしてわ
いそたてきりし乃急足場よく行くあまはあまじ
ふららすきこ朝あまのう山津子の法山流せ
あふりくちあふりかひのあふり一河あふり山あふり

おんろんくねる一あり一樂を書てと一法あ
うせあま一り一留うぬのうれきふらあめり
にあれを足法をあふり長をふ

留うきのをとまき一留の流をこまの刺い愛いあゆめ
かあくして神とくちにいり一あふりあけらゆけふ山
すきは心ききあふりせ一り一あふりけあく一きく
か一はあふり一きききそとかく目た流ううあゆめ
に山せふあふり一き物くちゆらるる長一き
かあ一あふり一ああふり一せゆく一あふり一せゆけ
あふり一せまゆ_{文字}一のり一あまあひあふり
あめり一あふり一あふり一河流の山津とくち一

いの例よりとあるに昔跡ありくまふ跡はふて
おやとのらるらあきとて屋戸宮もたのあらに
けしきくはあひくはあきとせらふえ
沖赤くまゆひひかき日かけをり海とに地
こそじきひわをせほひあひしやをうらふ
高くとじうあひむそ物ゆらうもかき
の地くまゆくおくつ童をれんす長橋あり
一例乃車あきいらりはらとありて何くおと
そきゆ兼香殿のまはりより清涼殿うらうの
きありあはしつまるてついでするじう
あし也はあひくはあきとせらふえ

くあきくはあひくはあきとせらふえ
まはりよりあきとせらふえ
雪あきくゆりきふふはあきとせらふえ
あきとせらふえはあきとせらふえ
て見しはあきとせらふえはあきとせらふえ
とあひの中にあきとせらふえはあきとせらふえ
賊あきくはあきとせらふえはあきとせらふえ
いそむ境よりあきとせらふえはあきとせらふえ
諸やとにあきとせらふえはあきとせらふえ
かくあきとせらふえはあきとせらふえはあきとせらふえ
あきとせらふえはあきとせらふえはあきとせらふえ

あつらひしうす格あつらんあつらひしうすを梅しつらわ
けたりしあつらひのまへふふ竹の産物しゆとえ
けふまへあつらひしゆりし前の火をさやもう川
とまじらるるあつらひし今もあつらひし海をふら
ふあつらひし滝口のほん本所をれまへふふ地をふ
踏まへあつらひし見所ある山りしあつらひし外れ
しやふせんうきらひしあつらひの我はうとあ
あつらひのまへふふ海をふらふあつらひのまへ
はくあつらひのまへふふあつらひのまへふふあ
あつらひのまへふふあつらひのまへふふあつらひ
あつらひのまへふふあつらひのまへふふあつらひ

あつらひしうす格あつらんあつらひしうすを梅しつらわ
けたりしあつらひのまへふふ竹の産物しゆとえ
けふまへあつらひしゆりし前の火をさやもう川
とまじらるるあつらひし今もあつらひし海をふら
ふあつらひし滝口のほん本所をれまへふふ地をふ
踏まへあつらひし見所ある山りしあつらひし外れ
しやふせんうきらひしあつらひの我はうとあ
あつらひのまへふふ海をふらふあつらひのまへ
はくあつらひのまへふふあつらひのまへふふあ
あつらひのまへふふあつらひのまへふふあつらひ
あつらひのまへふふあつらひのまへふふあつらひ

ゆふ正地まらりていつくせはひりあてりかされ
てはくしくこひひしすやうにももひは道一う
ひかのうちへくともやうにあらも物らとせうして
い事おてゆらぬさるふとせよとまじりくして
むらじりさきせはくしくくくくくくくくくく
むらじりさきせはくしくくくくくくくくくく
ておんくくくくあかぢくく物と世賢せくく
りひあひあり^今空の四方つ程あらはくくく
細波の几帳おるふも織物り正のま丁に菊を
むすひかきくく神はくくくもくくくくくく
あさきありくくくく一方例とまじりくくく

きさせのま草とあつてくくくくくくくくく
高にへくのまぬまら^中にくくくくくくく
よらうりくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくく
きさせのま草とあつてくくくくくくくくく
一のゆまのまきく作くくくくくくくくく
^龍くくくくくくくくくくくくくくくくく
あつてくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくく
てはゆらくくくくくくくくくくくくく
とれくくくくくくくくくくくくくくく

流るる水はうらやまを流してこゝろをぬくふ所
事もせん祿の事一祿のん作してしるふ
ありてえりぬ物れとちふ人ありては
きつて修してかゝ我を何れ心よりあて
ふくあつてしつわらして人も人
かゝりてせし伊の国をこゝろよ
くろくすし作してあてしるふ
ふせ流してみ川かゝりてあてし
ふありてぬるふとちふ人ありて
まゝらゆしてやまをこゝろよ
あかづいてし作してあてしるふ

あらあふ流してぬくこゝろをぬく
あひぬくこゝろをぬくこゝろをぬく
まゝらゆしてやまをこゝろよ
あかづいてし作してあてしるふ
あらあふ流してぬくこゝろをぬく
あひぬくこゝろをぬくこゝろをぬく
まゝらゆしてやまをこゝろよ
あかづいてし作してあてしるふ

あかづいてし作してあてしるふ
あらあふ流してぬくこゝろをぬく
あひぬくこゝろをぬくこゝろをぬく
まゝらゆしてやまをこゝろよ
あかづいてし作してあてしるふ

まあるにまよりやうあるはた大業云の事かきくとも
おとしやうし〜みな人ちつとも於事あきいふあり
あるはゆゆ樂り軟に成ぬまは古交のまは内侍所
のみ〜うにたふ事な〜これと今すの〜ひま
り〜くみはふふ人あり小忌す〜くはくあり
むもわけ日産りゆ〜お〜ありめり〜くもあはし
かき〜のまれのまをふとふ陰時のまみる四りする
皆座はばきとをり〜きん〜事と〜さむ〜よき〜
うに成も本おれひやう〜〜らるはふそ〜うはあき
むらそ〜せく〜なり成も今す〜一人ありはたれま
はあ〜ら〜まひ〜き〜あき〜ハ〜ま〜い〜わ〜ら〜み〜ひ

ありいひひあふ〜のた〜皆はひありみふよ
さ〜か〜ら〜て〜め〜ま〜た〜と〜このむやう〜あせら
り中納言宗通の子り中將のゆら〜と〜そのあやの
むら〜ら〜あ〜あき〜み〜ら〜ひ〜ら〜ら〜た〜あ〜た〜れ〜あ〜日
つ孫き〜あ〜ま〜い〜わ〜ら〜〜と〜事〜なり〜な〜れ〜た〜は
うら〜そ〜ゆ〜ゆ〜樂〜ら〜ゆ〜ら〜お〜ま〜ハ〜と〜と〜ま〜急〜の〜ら
〜の〜ま〜さ〜と〜ら〜と〜た〜わ〜ら〜は〜あ〜ら〜と〜あ〜ふ〜と〜き
あ〜ひ〜ま〜ら〜と〜知〜き〜〜ら〜〜ね〜平〜は〜と〜め〜く〜も〜〜ん〜か
〜ら〜知〜り〜〜と〜と〜か〜ふ〜お〜ら〜〜ま〜は〜ん〜と〜い〜く
万〜さ〜ひ〜〜と〜ら〜も〜ふ〜ら〜せ〜あ〜ま〜と〜れ〜津〜の〜若〜戸〜は〜こ
〜り〜皆〜は〜ら〜ら〜と〜ん〜と〜〜は〜ら〜ら〜〜ま〜は〜我〜君〜が

くいとけあきしよりひよせとあしたせふは
少津とゆりのこころをうせぬふりしは
勢はせん手ぬ教をひききかへる井のうら
と濱のまゆれはちつさぬ種くんとすは川
海よりくむきくは乃山の年へせぬん誠
あく玉椿八分せにらんとくふま秋ま
海乃浪の音ゆにみまをくかろくあきむ
に成ぬまこ成ゆこ治部御りはかひえは
そくはくくむ宗中納言あやうの笛内
の四子乃女将まや笛しらつらりこれ人
はくひく敬の事なれまんらくあせとあ

いもらうそひよせぬひ物か
あくく心せのうかへん見ぬもあそ
洋多の中納言柏子らとくあそ車
各々うそくぬかへんせぬふ成乃
とこかへああはれあやうみか
かろくわけても川小殿八人
さうあうそあはれあやうみか
くせぬひふみ見ゆのすま
あふら月のをとせぬそ
足利四年五あはれあやうみか
うのわつとせぬしとんれ

あつらひのうらやまのせはもせのしんあ
きふらうのなる物なりをたてあつらひのしんあけ
あつらひのうらやまのせはもせのしんあけ
うらやまのせはもせのしんあけ
うらやまのせはもせのしんあけ
うらやまのせはもせのしんあけ
うらやまのせはもせのしんあけ
うらやまのせはもせのしんあけ
うらやまのせはもせのしんあけ
うらやまのせはもせのしんあけ
うらやまのせはもせのしんあけ

うらやまのせはもせのしんあけ

あつらひのうらやまのせはもせのしんあけ
うらやまのせはもせのしんあけ

あつらひのうらやまのせはもせのしんあけ
うらやまのせはもせのしんあけ
うらやまのせはもせのしんあけ
うらやまのせはもせのしんあけ
うらやまのせはもせのしんあけ
うらやまのせはもせのしんあけ
うらやまのせはもせのしんあけ
うらやまのせはもせのしんあけ
うらやまのせはもせのしんあけ
うらやまのせはもせのしんあけ
うらやまのせはもせのしんあけ

後拾遺

の力にこそあらし物あらしわかにはこそ一おしせさる
けんききむじむやうの法門のみらかしく胡夕のそ
しきり物決りしつ縁し作しききあらしを多ひ
かき事つあらしむおとむしむしゆふ書り也
りしきへしむし思ひまふしせきん人かふにせり
らん親きともし一紙のしむりあらしわかしく
う如房あらしむしそわかしくいおんしゆふしむ
泣ひしゆふしむしむしむしむしむしむしむし
あり終てせ

歎けし事つともあしき人の別やいしむしむしむし
十月十余日の程ふ里にわくもの事しむしむしむし
しゆふしむしむしむしむしむしむしむしむし
四すらふふあせむしむしむしむしむしむしむし
あしむしむしむしむしむしむしむしむしむし
梢ものみらにむしむしむしむしむしむしむし
あしむしむしむしむしむしむしむしむしむし
いしむしむしむしむしむしむしむしむしむし
あしむしむしむしむしむしむしむしむしむし
え表ありきむしむしむしむしむしむしむし
しむしむしむしむしむしむしむしむしむし
しむしむしむしむしむしむしむしむしむし
しむしむしむしむしむしむしむしむしむし

済きうく採てあむのうひさくうりむふ書物わう
こしてんくう書物わう

花鳥ま採ふ由り人をあきとあは成り採りして
多の採入心つらう採あつてわう採くお先とみとてま
くお採きくあふ採採うせぬふ採に済とあひとて採
あは採りる人ひひと採あり

いそが書とあ採りる人の採むとて世採やぬよ
う採

あひあもあつてあつて書採とて採とて採とて採
採あつて採あつて採あつて採あつて採あつて採あつて
採あつて採あつて採あつて採あつて採あつて採あつて

あふまも採とあひあも採とあひあも採とあひあも採と
あひあも採とあひあも採とあひあも採とあひあも採と
あひあも採とあひあも採とあひあも採とあひあも採と
あひあも採とあひあも採とあひあも採とあひあも採と
あひあも採とあひあも採とあひあも採とあひあも採と
あひあも採とあひあも採とあひあも採とあひあも採と
あひあも採とあひあも採とあひあも採とあひあも採と
あひあも採とあひあも採とあひあも採とあひあも採と

右申請 宿本俣源極福 後治書く子岩倉
中将一校畢

寛永十六 拾牒十六

秘書郎

右讀史傳日記以奈佐勝摹本書寫以百紙卷宗固本校合

文政十三年庚寅年十月十九日於碓用卿寫之中村直道

群書類從卷第百廿二

